

水痘（水ぼうそう）予防接種について

対象となる病気について

水痘は水痘・帯状疱疹ウイルスの直接接触、飛沫感染あるいは空気感染によって感染します。感染力が強く、5歳までに80%の子どもが罹ると言われています。一般に軽症で済みますが、中には重傷化し、入院が必要となったり、死亡することもあります。

潜伏期間は通常13日～17日です。特徴的な発疹と発熱が主症状で痒みを伴います。発疹は最初は斑点状、その後3～4日は水疱で、最後は小さなかさぶたを残し、間もなくかさぶたは剥がれ治癒します。水疱の数は症状が出てから数日で250～500個以上に達します。発熱の程度は通常38℃前後の発熱が2～3日続きますが、40℃を超えることもあり、その際に熱性けいれんを合併することがあります。

ワクチンの概要

水痘・帯状疱疹ウイルスを弱毒化してつくった生ワクチンです。副反応はほとんど認められませんが、時に発熱、発疹および局所の発赤、腫脹（はれ）、硬結（しこり）が見られます。その他、稀に接種直後から数日にかけて、過剰反応（発疹、じんましん、紅斑、そう痒、発熱等）があらわれることがあります。重大な副反応としては、稀にアナフィラキシー、急性血小板減少性紫斑病があります。

接種の方法

接種回数 生後12月から生後36月に至るまでの間に2回

接種期間 1回目・・・標準的には生後12月から15月に至るまでに接種

2回目・・・標準的には1回目の接種終了後6月から12月に至るまでに接種